

第2回 長浜市総合計画審議会 議事録

I 日 時 平成27年10月29日（木曜日）10時00分～12時05分

II 場 所 長浜市役所西館1階 多目的ルーム1・2（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（会長）、 神谷昌史委員、 平山奈央子委員、
松島三兒委員、 大久保禎雄委員、 中西恭子委員（副会長）、
福島孝夫委員、 大谷晶子委員、 板山きよ美委員、
中嶋毅委員、 平川市孝委員、 川崎四朗委員、
押谷喜美子委員

【事務局】総合政策部：藤原部長、松居理事兼総合政策課長、
総合政策課：元村副参事、川村主幹、柴田主事

IV 欠席者 前田優子委員、 塚田益司委員

V 内 容

1 開 会

事務局 人事異動による事務局体制の変更について報告した。

2 議 事

（1）策定に向けた推進体制及び全体スケジュールの確認について

事務局 資料1, 2, 3, 4について説明を行った。

一質疑なし

（2）「長浜の未来を創るまちづくり市民懇話会」からの提言について

事務局 資料5, 5（補足）について説明を行った。

会 長 策定過程において、本提言をどのように活かしていけるのかについて、
後ほど議論を行いたい。個人的には、内容に違和感は無いように思う。

（3）基本構想の見直しにあたり留意すべき計画・意見について

事務局 資料6, 7, 8, 参考1, 3について説明を行った。

一質疑なし

（4）長浜市の現状と課題について

事務局 資料9, 10, 11, 12, 参考2について説明を行った。

会 長 満足度が低いにも関わらず、重要度が高いものについて、市の見解を教

えていただきたい。

相談体制の充実と規律ある学校づくりの支援について、満足度が低い
が、その理由はどう考えているのか。

事務局 相談体制の充実については、相談したいという思いがあるにも関わら
ず、体制が十分に敷かれていないと感じておられることが、数値に表れ
ていると思う。

また、規律ある学校づくりについては、保護者が様々なことを学校に求
めているということの表れではないかと考えている。

会長 防犯対策の推進についてはいかがか。

事務局 近年、長浜市においても犯罪件数が増加傾向にあり、危機感が高まって
いるにも関わらず、その対策が十分とられていないとの認識があるのだ
と推測している。

会長 多様な就労機会の確保と定住促進についてはいかがか。

事務局 厳しい経済状況により雇用が悪化している中で、本市においても雇用の
減少により人口が流出している。就労機会が増えれば定住につながるこ
とから、多様な就労機会の確保が必要であると捉えている。

会長 計画的な土地利用の促進についてはいかがか。

事務局 様々な規制もあり、住宅地にできる土地等も限定されている。規制緩和
等も含め、今後の土地利用について検討の必要があると考えている。

会長 誰もが住み良いまちづくりの推進についてはいかがか。

事務局 以前と比較して人間関係の希薄化が進みつつある中で、地域との付き合
い、しきたり等といった周囲とのコミュニケーションを嫌う価値観が表
れたことが、一つの要因ではないかと考えている。

(5) 基本構想の見直しに向けた論点について

会長 どのようなまちを目指すのかということで、まず将来像を考えなければ
ならない。今後、将来像を内外に向けて示すことで、長浜市の目指す姿
への理解を促していくことになる。

委員 資料 12、13 について、課題や論点はこれまでの調査に基づいて作成さ
れたものか。

事務局 資料 12 の 1～3 ページについては、客観的な情報を集約したものであ
る。4～7 ページについては、市の行政的な課題認識とこれからの検討課
題に基づいたものである。資料 13 については、これまで様々な方面か
らいただいた意見に基づいたものであり、1 ページ目の将来像について
は、現行の将来像で掲げる概念に基づいて作成しており、視点について
は懇話会等の意見を整理したものである。

2 ページはキーワードをそれぞれの意見に沿った形で取りまとめたもの
である。3～5 ページについては既存資料からの出典である。

委員 参考資料３の「長浜地域」の中に、浅井地域とびわ地域が入っているという認識でよいのか。

事務局 そうである。定住自立圏構想の策定時は１市２町合併をした段階であり、後に合併した６町部分は周辺地域としている。本来、合併後は定住自立圏という定義は使わないが、特例として制度を使っている。

委員 たくましい経済基盤をつくるまちづくりについては、昨年度と比較して重要度も満足度も低下している。市民懇話会でも議論に出ていない。その一方で、現行の計画では将来像の視点にあがっている。これらのことを踏まえて、今後の政策をどう考えればよいのか。

事務局 また、資料１０のアンケート調査の住み続けたい理由と転居したい理由について、相反する意見があがっているが、これはどういうことなのか。

委員 アンケート調査については、正確な要因の把握はできないが、都市部と山間部の地域差が表れたのではないかと考えている。

委員 懇話会としては、経済基盤に関する話題は「資源を暮らしに活かすまち」に集約しているという位置づけである。これまでの商工業よりも、農業の六次産業化や自然循環エネルギーといったような、より人間的で暮らしに近いところでの充実といった意見が多かったと認識している。

委員 そうであれば、企業誘致等の施策を再考する必要があるのではないのか。

会長 また、市民参画から出てきた地域産業や雇用促進といった言葉からすると、資料１３の中に色濃く出ている経済基盤という表現に違和感がある。

事務局 市民懇話会については、市民目線からの議論であるので、行政マターな部分は議論されていない。市民懇話会の議論は最大限尊重しつつ、議論にあがっていない分野についても、行政計画として必要なものは盛り込んでいくこととなる。

事務局 市民懇話会では、市民が主体となって取り組める事項を中心に議論を進められており、産業やインフラといった都市基盤等については、別の議論になると考えていただきたい。

(※) 将来像を表現するキーワード等について

委員 資料１３の２ページの中心になっている部分で、「幸せ」という言葉をどう解釈していくかが重要である。人も環境も多様化する中で、まとめずに多様な「幸せ」とするのか、ある程度集約して多くの人が幸せを実感できるいくつかのポイントに絞るのか、考える必要がある。

委員 「自立」がキーワードになるのではないのか。

委員 「農林水産業の振興」という言葉に違和感がある。農業の多面的機能をいかにまちづくりに結びつけるかについて、議論が必要だと思う。農業とまちづくりがどのように関係するのか、また農業がどういう立場でまちづくりに貢献していくことができるのか、議論していただきたい。

- 委員 県全体を見て、県南部と比べると、長浜市内では地域活動が活発であり、コミュニティのつながりが深いと感じている。市への愛着が強いこともアンケート結果に表れており、実際に市内外で活躍されている方々の姿を見ても、愛着は強いと感じる。地域の魅力を伝え発信していくことが必要であるが、市民の地域への愛着やつながりといった、市や地域の良さをうまく活かす形にしていければ良いのではないかな。
- 委員 「心豊かな人づくり」という言葉をキーワードとしてあげたい。まちづくりは人づくりであり、人が住み良いまちであるためには、心が豊かで住み続けたいと思えるまちでなければならない。そのための素材はたくさんある。観光にしても農業にしても、そのことにつながってくる。どういう方法をとればよいのか、これからの議論になるのではないかな。
- 委員 「人の心の温かさ」をキーワードにしたい。幸せはどういったときに感じるものなのか。農業、自然、人情といった長浜市の良さを実感できる人は定住してくれるであろう。転出理由に不便だからといったものがあるが、何かあった時に相談できる機関はあるのに、結果に結び付いていないということは、その機関、機能が十分に活かされていないためではないのか。そういった部分の充実があれば、幸せを感じるのではないかな。
- 委員 「自然と伝統を守る」がキーワードであり、さらに「祈り」を加えてはどうか。地域住民は戸建てからマンションに引越し、気楽だと感じているようである。地域の人口が減少していく中で、年中行事や祭り等の伝統を継承するため、マンション住民にも参画を促すべきである。
- 委員 「共生」という言葉を推したい。自然や環境との共生、多文化との共生、歴史や伝統との共生、人と人との助け合う共生、市民と行政の共生等、ぜひ入れていただきたい。
- 委員 「協働でつくる 輝きと風格のあるまち 長浜」というのはいい言葉だが心に響かない。「支え合い あなたの個性を伸ばすまち」というような表現が柔らかく、ピンとくるものが良い。
- 委員 「つながり」という言葉が浮かぶ。地域内のつながりだけでなく、観光による場所と場所とのつながり、産業と産業のつながり、歴史による過去とのつながり、人と人とのつながり、が印象に残っている。
- 委員 長浜好きの若い人はたくさん居るが、雇用などの将来に不安があるようである。若者の人口が減少していく中で、「戻って来られるまち」「戻って来たいまち」「戻って帰ることが実現できるまち」を目指していかなければならない。是非どこかに盛り込んでほしい。
- 委員 「絆」がキーワードであると思う。また、身体に良いものを大事と捉えているので「健康に暮らせるまち」もキーワードではないかな。アンケートの賛否ある評価をいかに受け止めるかが重要である。若い人が一旦は都会に出て行くのは当然のことであり、それでも、やっぱり長

浜がいいと戻って来てもらえるようなまちにすべきである。

「幸せ」という言葉は宗教的な意味合いも感じるので、別の言葉で表現できればいいと思う。

会 長 現行の将来像である「協働でつくる 輝きと風格のあるまち 長浜」という言葉は、合併以前につくられた言葉である。したがって、合併後の北部地域も含めた新長浜市を、全国・世界に向けて発信していくためには、すべてを包んだ新しい将来像が必要である。北部地域のイメージである自然の豊かさが伝わるものと、互いを支え合う次代のまちを表現できるような言葉が良い。

それぞれのご意見をどのようにまとめていくのか。硬い表現は避け、女性視点や生活視点で生み出される将来像が良いように思う。

事 務 局 今後、骨子を作成する段階でアイデアが浮かんでくともある。年明けの次回の審議会までに、案を事務局までお知らせいただければ議論に加えたいと思う。

(※) まちづくりの基本目標について

会 長 構成については、現行と同じものでよい。

委 員 現行(1)は漠然としすぎているので、変えた方がよい。

委 員 安心して老後を暮らせるといった、福祉関連の内容も入れていただきたい。

委 員 計画の柱づくりの方法として、市民や行政職員、既存の計画などに出ているキーワードをグループ化し、後で柱に名前をつけるのが良いのではないかと。その際に、誰の意見かをわかるようにしておくことが重要である。

会 長 市民懇話会のキーワードと若干異なるので、関係性を確認して考え直した方がよい。

委 員 「資源を活かす」という表現がわかりにくいため、明確にした方がよい。

3 その他

(1) 今後のスケジュール及び次回審議会について

委 員 今後において、今回のように各自の意見を述べるような議題の際は、議事の時間を長くとる、また途中で休憩を挟む等としてほしい。

事 務 局 次回の審議会は1月上旬・中旬を予定している。

また、市議会の総合計画特別委員会の第一回委員会は、11月6日に行われる。

以上